

マイノリティとマジョリティの ディスコミュニケーション研究会 (MMD研)

○ 森下摩利 (代表・先端研一貫制博士課程3年) ○ 石川真紀 (先端研一貫制博士課程3年) ○ 大橋一輝 (先端研一貫制博士課程2年) ○ 田中秀典 (社会学研究科2年) ○ 種村光太郎 (先端研一貫制博士課程4年)

○研究会の目的

コミュニケーションの「平等化」や「民主化」(野口2016)の達成を志向していくには何が必要でどうすればいいのか。ディスコミュニケーション(コミュニケーションとして機能しているが、それが「平等化」「民主化」されていないもの)の事例を通して、コミュニケーションとはどのような行為/現象なのかについて考える。野口裕二(2016)「医療コミュニケーションの変容——平等化と民主化をめぐる」『保健医療社会学論集』27(3), 3-11.

○実施内容

小倉英郎氏による化学物質過敏症講演会(オンライン)

申込106名 / 当日参加75名 / アーカイブ視聴あり / 文字情報保障あり

11月17日に医療法人高幡会大西病院、国立病院機構高知病院で化学物質過敏症外来をされている小倉英郎先生をお招きし公開講演会を開催。化学物質過敏症の発見と認定の歴史、診断方法、事例、小児の課題、自治体の啓発活動等、多岐に渡る内容をご講演いただき、参加者より多くの質問があった。

化学物質過敏症研究会 参加11名 / 文字情報保障あり

講演後、小倉先生、研究者、院生で研究会(オンライン)を実施。「認められない病」としての化学物質過敏症を生きる当事者の現状や医療政策の課題について議論を行った。

定例研究会(6月~2月) : 9回 ※オブザーバーや他大学院生の参加あり

テーマ: ○「盲ろう」の実態把握の歴史と変遷 ○化学物質過敏症勉強会 ○「ろう者らしさ」を巡るポリティクス ○ろう文化研究会 ○知的障害者を取りまく余暇の社会学的考察 ○高次脳機能障害のある人が受傷から就労までに行った自己開示の戦略、その他運営会議など

○成果と課題

- ・化学物質過敏症の「認められない病」構造を医療の現場と当事者の経験より明らかにした。
- ・メンバーの修士論文、博士予備論文、博士論文、学会発表に貢献。
- ・今年度は事例に着目したが、来年度は事例の分析方法や理論枠組みを中心に研究会を実施。